

令和4年度 第8回部長会議 会議記録（要旨）

開催日時：令和4年10月3日（月） 13時00分から14時00分まで

開催場所：分散型WEB会議（市長公室、第2委員会室）

出席者：佐藤市長、高田副市長、熊谷教育長、原田総務部長、塚平企画部長、細田リニア推進部長、塚平市民協働環境部長、高山健康福祉部長、申原産業経済部長、今産業経済部参事、米山建設部長、毛利建設部参事、田中危機管理部長、土屋上下水道局長、齊藤市立病院事務局長、北原会計管理者、和泉議会事務局長、松下教育委員会参与、佐々木財政課長、小室秘書課長、小椋南信州広域連合事務局次長、林企画課長

会議内容

1 理事者あいさつ

＜市長＞

- ・飯田市議会第3回定例会が閉会し、また、まちづくり懇談会も全地区で終了した。それぞれから出された意見については、来年も同じ意見をいただくことがないようにしなければならない。可能な限り早期に対応し、予算の中で取り上げなければいけないことについては、予算編成の中で精査していく。市民の皆さんや議会からご指摘のあったものについては、できるだけ速やかに反応していくことが大事であるため、各部局での対応をお願いしたい。
- ・これから来年度の予算編成作業に入っていく。予算編成方針に記載がない事業であっても、着実に進める事業は多くある。細かい部分にも、部局長の目配りをお願いしたい。

＜副市長＞

- ・9月30日に、水道局から静岡市へ給水支援に行っていた。断水など、飯田市でも起こり得ることであり、飯田市で発生した場合も含めて対応を整理しておく必要がある。

＜教育長＞

- ・小学校、中学校での文化祭や部活動等で新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、学級閉鎖に繋がっている状況があるが、感染者数としては、横ばいである。
- ・社会教育関係では、美術博物館の城下町飯田と飯田藩の展示が好評である。また、上郷黒田にある遺跡についても、雨の中であっても熱心に参加される方がおり、市外から多くの方がお見えになっている。文化財や文化に関わる催し物がコロナ禍からだいぶ立ち上がってきている。興味のある方はぜひ参加していただきたい。

2 報告事項

(1) 公用車の事故状況及び飲酒運転根絶の取組について

◇趣旨

- ・用車の事故状況及び飲酒運転根絶の取組について報告する。

(2) 会計事務3S強化月間中の伝票返戻調査結果及び会計事務の留意点について

◇趣旨

- ・会計事務3S強化月間中の伝票返戻調査結果及び会計事務の留意点について報告する。

3 令和4年飯田市議会第3回定例会の反省について

(副市長)

- ・一般質問について、部長の一问一答の1回の答弁に情報を詰め込みすぎではないか。答弁が長くなってしまくと、聞いている方は分かりにくくなる。回数が増えてもいいので1回の答弁を短くした方がわかりや

すい。

- 残り時間1分を切ったからの新しい質疑をしないよう議長から指示はあったものの、実際には結構あった。それは市側の答弁が長いことも影響していると思う。
- 委員会について、市営駐車場の条例改正の件は総務委員会へ諮ったが、事業の目的や狙いと違う委員会に諮っている状況となってしまった。中心市街地の人の流れや賑わいの創出といった面から、市営駐車場の利用検討を見据えた上での2時間無料化だと思っているが、会計の収支についての議論になってしまい、本当の狙いを言う場がなかった。仕方ない面もあるが、やはり市営駐車場をどうするかは総務委員会ではなく、しっかりと中心市街地活性化の話の中で捉えていく方が訴えやすく、また、整理もしやすい。どこかで早く整理をした方がいい。
- 新文化会館の用地に関する質疑について、どのようなプロセスでこれから用地を決めていくのか、そのための調査はどういう位置づけなのかを理解していただく前に、中身の議論になってしまった。反って議員側に疑問を持たれてしまった感じがあり、長引いてしまった。大事なことだけに、単なる予算の説明よりは、方向性について先に話をした方がよかったのではないかな。
- 決算認定について、議員からの質問に対する答弁に際して「時間をください」とする場面が多かった。議員がどういう点の何を気にしているか、過去の状況はどうかといった、質問の傾向を把握し答弁を用意しておく必要がある。課長レベルでしっかりとそれぞれにチェックし合っておく必要がある。

(企画部長)

- 市側の答弁が長いと思う。答弁整理表の箇条書きを徹底した方がいい。最後時間がないときに答弁する際に、答弁整理表を箇条書きにしてポイントを明確にしていれば、短時間でもその中から拾い読みができる。リニア部を参考にしていきたい。
- 議会側からも、答弁を簡潔にしてほしいという要望が出された。
- 委員会について、主管課長会でも連絡済みではあるが、決算認定の説明は、決められた方式でお願いをしている。目単位の決算額を全部読み上げることや、ペーパーで説明しているのにタブレットの通知を出すなど、余計なことをしている例があった。去年のやり方と今年は変わっていることはよくあることなので、部局長も来年に向けて留意していただきたい。
- 委員会において、「ある事業の担当課は別の課がいいと思っている」とする発言があったが、別の委員会へ振られてしまうと、答弁もできない。また、振られた方が言われた事実すらも知らないという状況があった。私も議員に聞かれて困惑した。やむを得ず他の部や他の委員会に振ったときには、遅滞なく連絡していただき、議員や言われた方が困るようなことないようにお願いしたい。

(議会事務局長)

- 議会事務局としては、定例会ごとに反省会を行っている。特に一般質問における質的向上を図っていく必要があるとする反省が出ている。
- 市民の方からも、確認事項にとどまる一般質問が多すぎる。政策的な課題に議員と市が向き合うべきであり、質が低い。といった指摘をいただいている。議員研修を含めて各党派における再確認が必要であると反省している。
- 一般質問について、委員会の代表質問はしていないが、総務委員会、社会文教委員会、産業委員会の各委員会に所属する3名の議員が、当該委員会の委員会の了解のもと議員個人として一般質問を行っている。先進的な取組の中には、委員会代表質問という取組があり、まだ飯田市議会では内部的な検討段階にあるが、今後、視察等を行いながら、委員会における代表質問の位置づけを研究していこうと考えているためご承知おきいただきたい。

(市長)

- 一般質問において、議員から良い取組だと言っているもの、市民の皆さんにはあまり知られていないものがあり、例えば、移住相談に来られた方向けに出している「ゆいだより」など、市民向けの取組が知られていない、ゼロカーボンシティの取組がなかなか市民に見えないといった質問があった。市民向け広報は年度途中からでもしっかりやっていく必要がある。それは単に、ホームページに載せているとか広報に載せているとかではなく、新聞社に原稿を提供し紙面に載せてもらうなど、より市民の皆さんに市の取組を知ってもらう方法を考えてもらいたい。各部局での良い取組は、ぜひ市民に届くよういろい

ろ工夫していただきたい。

4 閉会